
流動性の高いコンクリートの 活用効果

材料資源研究グループ | 汎用材料担当 | 上席研究員 | 古賀 裕久

フレッシュコンクリートの流動性



土研新技術ショーケース
2026 in 東京 令和8年9月8日

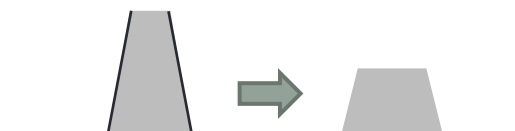
約10年前：軟らかい＝品質に劣るコンクリート
スランプ8cmが標準

現在：品質を変えずに流動性を大きくできる
スランプ12cmが標準
施工条件にあったコンクリートを選定

必要な箇所では高流動コンクリートの活用も！



スランプ（フロー）試験



当初高さ30cmからの下がり量
または広がりを測定



約8cm
過去、土木用
として一般的



約12cm
現在、土木用
として一般的



約18cm



高流動コン
クリート

硬い

軟らかい

主な講演内容

〔土研の開発技術の講演〕 15：20～

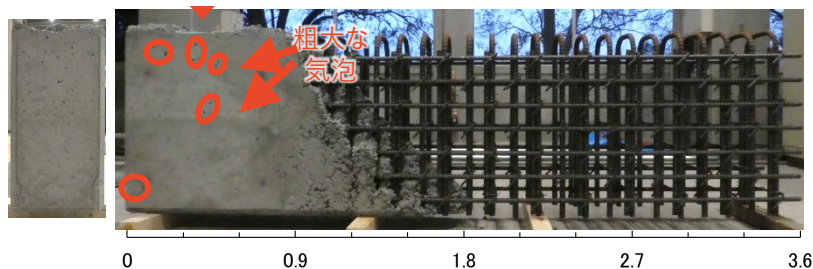
○コンクリートの流動性選定について

- ・ 流動性を高めた現場打ちコンクリートの活用に関するガイドライン
- ・ 高流動コンクリートの種類

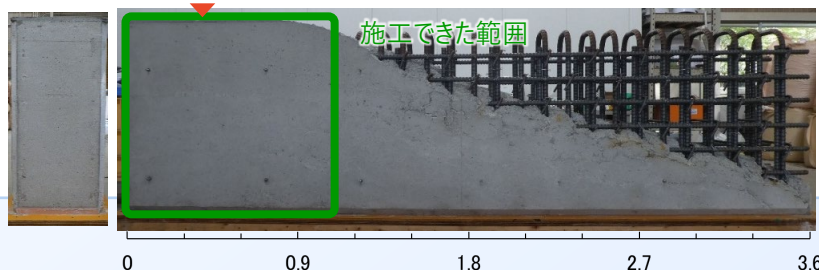
○流動性の違いによる施工状況の違い

- ・ 配筋が密な壁状供試体の施工試験
- ・ PCセグメント桁の施工試験

スランプ12cmのコンクリート



締固めを必要とする高流動コンクリート（スランプフロー45cm）



展示技術紹介



土研新技術ショーケース
2026 in 東京 令和8年9月8日

〔展示技術紹介〕 13:00～

- ・流動性の高いコンクリートの活用効果
- ・コンクリート構造物の補修対策施工マニュアル
- ・その他、コンクリート関係の話題なら何でも



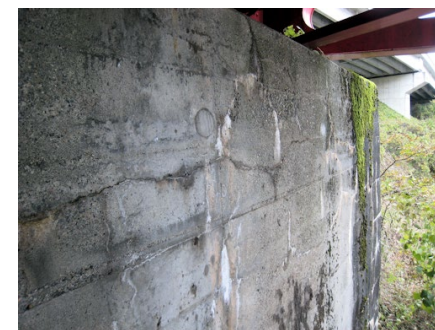
補修の不具合事例



非破壊試験



再生骨材コンクリート



コンクリート構造物
の調査・診断